

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 28 年 7 月 28 日 (2016.7.28)

【公表番号】特表 2013-514542 (P2013-514542A)  
 【公表日】平成 25 年 4 月 25 日 (2013.4.25)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-020  
 【出願番号】特願 2012-543872 (P2012-543872)  
 【国際特許分類】

G 0 2 B 5/18 (2006.01)

G 0 2 B 5/26 (2006.01)

G 0 2 B 1/11 (2015.01)

【F I】

G 0 2 B 5/18

G 0 2 B 5/26

G 0 2 B 1/10 A

【誤訳訂正書】  
 【提出日】平成 28 年 6 月 1 日 (2016.6.1)  
 【誤訳訂正 1】  
 【訂正対象書類名】特許請求の範囲  
 【訂正対象項目名】請求項 1  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【請求項 1】

少なくとも 4 つの平面状誘電体層を積層して、その上層が誘電体層で回折次数を決める溝が彫られて回折格子とし、スペクトル幅、入射角、偏光をもつ光線を回折する反射回折格子のコンピュータを用いた最適化方法であって、

- 溝が彫られる層を含めて誘電体層の数と性状を選択する段階と、
  - 予め定めた回折格子の形態それぞれの使用スペクトル範囲の複数の周波数で、少なくとも 4 つの誘電体の厚さを変え、最小値と最大値の領域幅と予め定めたインクリメントピッチで、少なくとも 1 つの格子溝のパラメータ値を変えて、少なくとも 1 つの回折次数での回折および / または伝達効率をコンピュータを用いて数値計算する段階と、
  - 計算された形態の中で、所定の回折の使用形態と前記複数の周波数に対応する効率とにおいて最も適した形態を得るように、所定の回折の使用基準により選択して、少なくとも 1 つの形態を決める段階と、
- を有することを特徴とする反射回折格子の最適化方法。

【誤訳訂正 2】  
 【訂正対象書類名】明細書  
 【訂正対象項目名】0 0 1 7  
 【訂正方法】変更  
 【訂正の内容】  
 【0 0 1 7】

本発明による方法は、次のステップで行うことができる。

- 溝が彫られる層を含めて誘電体層の数と性状を選択する。
- 予め定めた回折格子の形態それぞれの使用スペクトル範囲の周波数で、少なくとも 4 つの誘電体の厚さを変え、最小値と最大値の領域幅と予め定めたインクリメントピッチで少なくとも 1 つの格子溝のパラメータ値を変えて、少なくとも 1 つの回折次数での回折および / または伝達効率を数値計算する。
- 計算された形態の中で、想定される回折の使用基準を考慮して、少なくとも 1 つの

形態を決める。